



## 5 畜 産

項 目	作 業 内 容
<p>(1)家畜害虫対策</p>	<p>(今月の作業のポイント)  家畜害虫対策  家畜の健康管理</p> <p>イエバエは畜舎周辺や畜産現場以外でも発生し、最も一般的に見られるハエである。対して、サシバエは大動物を吸血するため、養豚・養鶏や畜産以外の場所ではほとんど見られない。また、イエバエは周辺住民からの苦情対象となり、サシバエが大量に発生すれば乳牛にはストレスとなって乳量にも影響を及ぼす。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 イエバエ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 サシバエ</p> </div> </div> <p>秋バエの発生を抑えるため、ハエが集まり卵を産みつける糞は定期的に除き、ハエの発生源をなくす。1匹のハエは一度に100～150個の産卵をするため、1日に1回は畜舎内の除糞・清掃をする。</p> <p>幼虫は低温には強いが、50以上の高温になると死滅するので、堆積発酵させるのがよい。また、たい肥をビニールで覆い、空気を遮断し、発酵熱を利用して幼虫を駆除するのがよい。隙間等には、殺ウジ剤や石灰窒素を散布する。</p> <p>ハエ駆除のための薬剤散布は、補助的な手段とする。</p> <p>サシバエは誘引殺虫(殺虫剤をハエの好む餌と混ぜて誘引する方法)が使えないため、対策としては環境整備、幼虫用殺虫剤と天敵(ハエサナギ寄生ハチ)との併用が有効である。</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2)家畜の健康管理</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p>写真3 乳牛に群がるサシバエ</p> <p>朝夕が涼しくなり、牛にとっては飼料の食い込みが旺盛となり、泌乳量や繁殖機能が回復してくる。</p> <p>しかし、夏期の高温にさらされ夏バテを起こした牛は、採食量の減少から体重が減少し、繁殖機能の低下が目立ってくる。回復を促進するため、良質な粗飼料給与に努め、第一胃内の発酵を正常に保つなど家畜の個体管理をこまめにする。また、サイレージを給与する場合は、品質の低下した物は控える。夏バテの回復が遅れている家畜には、何らかの異常があると考えられるので、早めに獣医師の診療を受ける。</p> <p>夏期に高乳量を出した乳牛は、繁殖機能を回復させるため、ビタミンやミネラル剤を補給するとともに泌乳量や体重の変化に十分注意する。</p> <p>なお、朝夕は涼しくなったが、日中は気温の高い日もあるため、畜舎内の換気等に注意する。</p>